

第1回草津市幼保一体化検討委員会（平成25年度） 議事概要

日時	平成25年4月22日（月） 午後2時から午後3時45分まで
場所	草津市役所 4階 行政委員会室
委員	西川委員長、福永副委員長、吉田委員、白井委員、大森委員、河井委員、東田委員、田中(真)委員、田中(和)委員、野村委員、永元委員（委員12名中11名出席）
事務局	山本子ども家庭部長、米岡健康福祉部理事、望月子ども家庭部副部長（総括）、田内子ども家庭部副部長（幼児担当）、田中幼児課長、重井幼児課参事、古川幼児課副参事、川那邊幼児課専門員、吉田幼児課専門員、森神幼児課専門員、畑学校教育課副参事 （運営支援） (株)ジャパンインターナショナル総合研究所 小林、吾妻
議事項目	（1）草津市における幼児教育と保育の一体的提供に向けて （中間とりまとめ・概要） （2）就学前施設の在籍状況（平成25年4月1日現在）等について （3）地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）について （4）平成25年度の検討項目（案）について （5）守山市における認定こども園での質疑事項（案）について （6）日程調整等について
資料	第1回次第 資料1 「幼児教育と保育の一体的提供に向けて」 （中間取りまとめ）【概要】 資料2 草津市の就学前児童を取り巻く現状（平成25年度補足データ） 資料3 地域別将来推計人口について 資料4 平成25年度幼保一体化検討委員会の検討内容（案） 資料5 認定こども園への視察について（案）

1. 開会

市長より挨拶

2. 委員紹介

3. 事務局紹介と草津市附属機関運営規則について

①事務局構成員の自己紹介

②事務局から、草津市幼保一体化検討委員会の目的として、質の高い幼児教育と保育の一体的提供に向けて策定する幼保一体化基本計画に盛り込む内容について、幅広く議論・検討していくことを説明。

#### 4. 議事

##### (1) 草津市における幼児教育と保育の一体的提供に向けて

<事務局>

・資料1（中間まとめ報告書）に基づき、昨年度における検討内容の概要について説明。

<委員長>

今年度については、中間とりまとめの内容に基づき、引き続き検討を行い、課題については明確化し、どういうあり方が望ましいか提起していくことになる。説明に対する質問や意見はないか。特にないようであるが、何かあれば後ほど、意見をいただきたい。

##### (2) 就学前施設の在籍状況（平成25年4月1日）等について

<事務局>

・資料2に基づき、平成25年4月現在の草津市における待機児童数や入所入園数など、最新の状況を説明

<委員長>

資料に記載されている通り、園児が保育所で増加し、幼稚園でかなり減少している。待機児童は低年齢児（0, 1, 2歳）が非常に多く、この年齢における保育需要が増加しているというデータが出ており、近年の傾向が読み取れる。就学前児童の直近の情勢について、ご質問やご意見、感想はないか。

直近のデータに関しては25年4月時点であるが、それ以前の年は5月のデータである。理由は何か。

<事務局>

幼稚園の場合、学校基本調査として5月1日に統計を取っているため、24年度分までは5月1日のものを使っているが、今年度分は未だ4月の統計しか出ていないため、このような形になった。

<委員長>

誤差の範囲内ということでご理解いただきたい。質問や意見を受け付けたい。

< A 委員 >

去年から見えていた傾向である。実際に現場でも、0, 1, 2 歳、特に1歳保育の需要が大きいと思っている。

< 委員長 >

やはり現場の感覚としても1歳の増加は感じられるのか。

< A 委員 >

育休明けや年度途中の1歳未満入所希望が多いように思う。

< 委員長 >

資料2の4ページにも、4月よりも年度後半の方が待機児童に増加が見られる。施設、園関係の先生方、保護者の皆様、市民代表としてもそれぞれの立場で感想やご意見をいただきたい。

< B 委員 >

うちの幼稚園では毎年、3歳児の募集時に40名くらいお断りをしている。年間では100名にのぼるだろう。その方たちが幼稚園に行っていないのだと改めて感じた。

< 委員長 >

7ページに、3歳児の未在籍者数が出ている。

< C 委員 >

待機児童が26人となっていたので、今年は減って良かったと思ったが、自分の希望したところに入れぬ苦悩や保護者の苦しみという問題もあるのだと感じた。

< 委員長 >

数字では語れない部分があり、深刻な部分はこのデータから見えてくる。

< D 委員 >

幼児教育の観点から申し上げると、3歳からの教育の充実が幼稚園・保育所共に非常に大切であり、進めていく方向にある中で、3歳の未就園児が多く存在し、公立幼稚園が2年保育であるという現状がある。アンケート結果にもあるように、保護者は3歳児からの教育を希望されている。

また、保育所や幼稚園に行っていない3歳児を対象に、未就園児活動を実施しており、受け入れ枠も限られている現状はあるものの、3歳児の子どもたちの生活や活動、遊び

を広げる場を提供していく必要があるし、保護者も求めている。子どもを育てる部分では、そのような活動の場をつくっていくことや、公立幼稚園における3歳児の受け入れを本気で進めていくことが重要になってくる。

<委員長>

その活動は「広場」という名前だったか。

<D委員>

未就園児活動は、園によって色々な名前がある。

<委員長>

昨年度も実施されていたと思うが。

<D委員>

長く実施している。ただ、やり方は考えていく必要があると思っている。場所や人員の体制もあるので、在園する子どもたちへの幼児教育が基本となるが、その状況の中で、子育て支援として、未就園児活動をどうしていくのかが非常に大事になってくる。

<委員長>

3歳児の問題は、データ上でも思慮すべき状況であることが見て取れる。

<E委員>

待機児童の内訳で、3歳児よりも1歳児が多いというのは意外であった。幼稚園の保育園化が進んで、3歳児が保育園から幼稚園に行くようになったら、その分保育園に空いた席に1歳児の定員を増やすことができるのではないかと思った。

<委員長>

色々な形があるとは思いますが、幼稚園の保育園化は、まさに幼保一体化のひとつの形である。この委員会で検討していく内容にもなるだろう。

<F委員>

私は幼稚園なので、保育所の待機児童数を見たことがなかったが、もっと多いかと思っていた。今年度に限って言えば、26人という数字がすごく少ないと思った。

また、3歳児の未就園児が多いということだったが、私立幼稚園でも公立幼稚園でも定員100%に達していないのに未就園児が多いのはなぜか。公立を望んでいるからなのか。私立においても、まだ入れる人数があるように見える。入れなくて未就園となっている

のか、公立を希望するから未就園となっているのか、疑問に思った。

<委員長>

公立幼稚園において、3歳児の段階では受入れをしていないからということか。

<F委員>

公立に関しては、そういうことですね。

<委員長>

未就園の要因として、保育所に入る場合は、保育に欠ける要件が必要なのでそれを満たさないということかもしれない。その辺りは数字では分かりかねるが、待機児童としては少ない数字だという感想と、3歳児の未在籍の問題についての意見をいただいた。

<事務局>

私立幼稚園の空きがどのくらいあるのかはわからない。3歳児で少し空きがあるにもかかわらず私立の幼稚園に行っていない方がいる要因としては、保育料補助も考えられる。

公立と私立では保育料に少し差があるので、その差を埋めるために4、5歳に関しては市が補助という形で助成をしているが、3歳児に関しては公立がないのでそのような補助がない。私立保育園に3歳児から入ろうと思うと、保育料をそのまま負担しなければいけなくなる。その点が少し影響して、未就園児がいるにもかかわらず、定員空きの状況になっているのかもしれない。

<委員長>

私立幼稚園に通う3歳児には補助がないことが、一つの要因として考えられるという、事務局からの説明であった。

### (3) 地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）について

<事務局>

・資料3に基づき、国立社会保障・人口問題研究所が発表した「地域別将来人口推計」について説明。

<委員長>

説明に対して意見や質問はないか。草津市は緩やかな人口増で進展していくが、生産年齢人口を見たときには、厳しい状況になっていくということであった。

< A委員 >

去年の当初の辺りで草津市の学区別の人口推計を細かく見ていくことを言っていたと思うが、それはいつごろできるのか。

< 事務局 >

人口推計作業については断念したわけではなく継続中である。どの時点で提出できるかは現段階では明言できないが、今年中の6回の会議のどこかで、なるべく早い段階で提出できるよう努力する。

< 委員長 >

現在進めているという理解でよろしいか。

< 事務局 >

資料3は、日本全体の直近の人口動向から草津市を見たときに、どういう傾向にあるのかというものである。正確に草津市がどうなっていくのかについては、地域差もかなりあるので、それを見るためにより具体的な人口推計が必要になる、学区別の人口推計についても、作業は進めているので、提示できる段階になり次第、説明させていただく。

< A委員 >

了解した。

#### **(4) 平成25年度の検討項目(案)について**

< 事務局 >

- ・資料4に基づき、今年度の委員会の検討項目案について説明

< 委員長 >

引き続き課題を明らかにし、検討していくためにもいろいろと意見を頂ければと思う。

#### **(5) 守山市における認定子ども園での質疑事項(案)について**

< 委員長 >

昨年度、「こども園の現状が知りたい、色々と声が聞きたい」という意見が出ていたが、今年度視察を実施できるということで、事務局から説明願いたい。

< 事務局 >

昨年度の委員会において、近隣市町の認定こども園を見学し、かつ、実際に働いている職員を含め意見交換をしたいという意見が出ていたので、調整を進めてきた。守山市

の小津こども園を5月27日午後に訪問させていただくことで内諾を得ているので、了承願いたい。

当日は、45分程度施設見学と説明を受けた後、こども園の職員と45分程度意見交換を行いたい。視察後、場所は未定であるが、第2回検討委員会を開催する予定であり、その場で感想等話し合ってもらいたい。視察、委員会を含め、5月27日の13時から16時半まで、時間を空けていただきたい。

<委員長>

できるだけ委員の皆様にご参加いただきたい。資料5に質疑事項が書いてあるが、これは昨年度出た様々な質問をまとめて書いていただいたものと考えてよろしいか。

<事務局>

はい。委員会で出てきた意見を参考にして、課題抽出や問題の整理につなげる質問をまとめている。

<委員長>

当日は、これらの質問を前もって送っておいて、一方的に答えていただくのではなくて、リアルタイムで質疑応答を行うという理解でよろしいか。

<事務局>

質問事項を事前送付の上、質問に対して質疑を繰り返して頂く形になるかと思う。

<委員長>

当日、大事な点や確認したいことについてこちらから質問を行い、答えていただくということでよいか。

<事務局>

視察先にも、このような趣旨の質問をさせていただきたい、ということを事前に伝えておいた方が戸惑われることも少なくなると思う。これ以外の質問をしていただいても構わないが、基本的にはこれに沿って行う。

<委員長>

では、質問事項を取りまとめておく必要がある。委員の皆様には当日、ここに書いていない質問をして頂いても良いということか。

<事務局>

この質問案に対して、委員の意見を聞いた上で、再度事務局の方でまとめていきたいと思っている。

<委員長>

質問案以外のことがあればできる限り取りまとめたいという事務局の意向だが、すぐに質問を思いつくのは難しい。今日欠席されている委員もおられるので、日を切って、また後日まとめていただくことはできるか。

<事務局>

後日意見をいただければ、改めてまとめていきたい。

<委員長>

後ほどでも良いということだが、目を通して、こういうことを聞いてみたらどうか、こういうことを聞きたい、というのがあったらこの場でも出していただきたい。

<A委員>

職員の処遇について聞いてみたい。

<委員長>

具体的に処遇というと。

<A委員>

長時部と短時部の間での行き来があるか、その場合手当は出るか、何時間働けるのか、というところである。

<委員長>

職員の労働時間や給料については、これまでの意見の中でも出ており、必要だろう。他に確認したいことなどはあるか。

<D委員>

守山の認定こども園では、通園範囲は定められていなかったと思う。入りたいという人は、校区関係なく、全市的な募集として入れるのだろうか。

<委員長>

通園範囲に関する質問は、質問事項に加えていく。

<委員長>

話に良く出ていた給食のことやPTA、保護者についてのこともかなり入っていると思うが、あとはいかがだろうか。

<G委員>

クラス分けはどうなっているのか。長時部、短時部の中でもクラス分けがされていたと思うが。

<委員長>

なるほど。長時部、短時部のクラス編成についてはどのように考えているかということだ。

<G委員>

入ったらそのままずっと短時部なのかということもわからない。

<委員長>

長時部に入ったら長時部のまま、短時部に入ったら短時部のままなのか、ということだろうか。その辺りは「b) 子どもの生活」の①番の質問のところで、具体的に補足が可能と思う。

<G委員>

運動会などはあるのか。そういう場面や発表会などでは、長時部・短時部は交わるのだろうか。

<委員長>

はい。保護者の関わりも含めて、行事の動きがどうなっているのかということだろうか。質問項目に入っているので、また具体的に聞いていければお答えいただけると思う。

<E委員>

「f) その他」の⑧番だが、「保護者の満足度はどうですか」という質問に対して、何か調査などをとられるわけではないのか。認定こども園の職員の感覚としての答えしか得られないのだろうか。

<委員長>

感覚か、それか、もしそういうデータをとっておられたのであれば、見せていただく事はできるかもしれない。園によっては年度末にアンケート調査をとる場合も多いので、あればそのような資料を見せてもらうことはできるかと聞いてみても良いかもしれない。そこまでお願いできるかはわからないが、ここではアンケートをとるという意味ではない。学校評価としてのものは一定出していると思う。データは公開されているものもあるはずなので、客観的アンケートのデータ等からもこの辺りを明らかにできるかもしれない。

<委員長>

また目を通していただければ、より具体的なことを質問したい、と思われる方もいるだろう。項目内にあるようなことであれば当日質問していただければと思うが、全く新しい項目であれば、事務局の方に連絡していただきたい。

<副委員長>

形態の確認だが、当日の聴取や意見交換はどのように行うのか。園長先生や管理の立場の人と公式的な形で文書のやりとりをするような場はあるだろうが、それ以外に、例えば委員たちがもう少し砕けた感じで職員や保育士など現場の人たちと何かやりとりできるような時間や場所は設けられるのか、そういったことは考えているのか、また、他の委員さんたちはそのような場を望んでいるのか、ということについてお伺いしたい。

<事務局>

守山市からは、短時部と長時部の入れ替わりを見てもらうのが良いのではないかと提案頂いた。ただし、保育中の時間なので、実際に保育士や幼稚園の先生と話ができるかはわからない。希望として、管理職だけではなく、現場の先生方ともお話がしたい、ということは伝えさせていただくことはできる。

<委員長>

現場の方と話したいという意見も昨年挙がっていたので、可能な限り実現させたい。事務局に間に入って調整していただければと思う。

それと、視察後の委員会だが、視察先の施設で開催する場合、委員会公開の扱いはどうなるのか。

<事務局>

視察先での開催か、市役所に戻っての開催かは、公開の問題も含め、検討する。

質問の追加などの意見については、4月26日の金曜日までに送付いただきたい。皆さんの意見を加味、修正したものを、視察前に守山市に送付しておく。

< A委員 >

予定の中で、本年度の重要な件としてシンポジウムがあるが、これの内容についても一度確認を願いたい。

< 事務局 >

委員会と非常に密接に関係するとは思うが、委員会主催ではなく、市主催のシンポジウムという位置づけとなる。基調講演に引き続いて、中間まとめの報告を行い、その後パネルディスカッション考えている。詳細が決定し次第、お伝えする。

< 委員長 >

市民への啓発が充分でないというところから、シンポジウム開催の話が出てきた経緯がある。運営について当委員会は直接関与しないが、啓蒙・啓発していくにあたって、次回委員会にシンポジウムの内容について、出していきたい。

## (6) 日程調査等について

< 委員長 >

第2回検討委員会を5月27日、第3回検討委員会を7月22日14時から開催。

## 5. その他

< 事務局 >

活発な議論に感謝したい。この検討委員会は二年にわたって開催をするので、中間まとめの報告書を総論と位置づけるならば、最終の提言書には各論を盛り込む必要があると考えている。次回の視察や委員会、7月のシンポジウムの後には、より良い具体的な内容について検討をお願いしたい。

## 6. 閉会